

表-3.4.2(2) 採取手法の事例 2

採取手法	2-2 エアリフトで底砂ごと採取
対象	海域の内在性の種
説明・ イメージ図	<p>早川ら (2013) の「エアリフト」を利用して移動対象種を採取する。</p> <p>【装置の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 空気ポンペに口径 37mm の樹脂製ホースをレギュレーターで接続した装置。 • ポンペからの空気がホース内を上昇する際に発生する陰圧を利用して試料を吸引できる。 • ホース上部には、着脱可能な目合い 200μm のスイスナイロン製の袋をプラスチック製バンドで固定しており、ポンペからの空気とともにホース内を上昇する試料を袋内に回収する仕組みである。 <div data-bbox="523 837 1359 1317" style="text-align: center;"> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 空気 海水 採集物 </p> </div> <p style="text-align: center;">図 エアリフト</p> <p>【利点と欠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 底生動物を傷めずに採取できる。 • 採取袋があるため、泥底での採取では、濁りの発生が、ある程度抑えられる可能性がある。 • 本方法の採取対象が腹足類の稚貝となっているため、サイズが小さい個体しか採取できない。 • 採取袋にて、底生動物及び底質を回収するため、採取量が少なく、作業効率が低い可能性がある。
引用元	早川ら (2013) ちりぼたん Chiribotan Vol.42, No.1-4

表-3.4.2(3) 採取手法の事例3

採取手法	2-3 篩で底砂から採取
対象	海域の内在性の種
説明・ イメージ図	<p>目合い1mm程度の篩を用いて、底砂をふるい、底生動物を採取する。</p> <div data-bbox="472 510 1310 1290" style="text-align: center;">  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>篩 (1mm 程度)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スコップ</p> </div> </div> </div> <p style="text-align: center;">図 底砂の篩掛け模式図</p> <p>【利点と欠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 底生動物を傷めずに、採取できる。 • 泥底での採取では、作業を静かに行うことで、底砂を巻き上げずに、濁りの発生を抑えられる可能性がある。 • 採取の作業効率が低い。
引用元	—

表-3.4.2(4) 採取手法の事例 4

採取手法	2-4 水流装置等で砂を除去して採取
対象	海域の内在性の種
説明・ イメージ図	<p>海水用エンジンポンプを用いて岩や石礫に堆積した微細土粒子を水流で除去し、表層に現れた底生動物を採取する。 砂底や礫底で使用し、主にもずくポンプやエアリフトで吸引できない大きな個体を採取する。</p> <div data-bbox="453 607 1334 954" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">海水用エンジンポンプ</p> <p style="text-align: center;">図 海水用エンジンポンプの使用イメージ</p> </div> <p>【利点と欠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広い範囲の底砂を除去できる。 • 礫以上の粒径でも除去できる。 • 専門家からの助言によれば、水中でのジェットウォッシャーの威力は 30cm 程度であるため、底生動物を傷める可能性は低い。 • 泥底での採取では、濁りが発生する可能性がある。
引用元	—

表-3.4.2(5) 採取手法の事例5

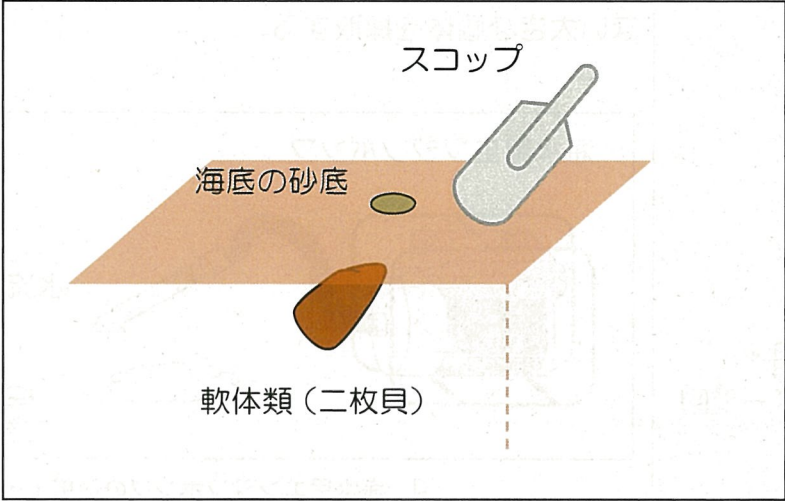
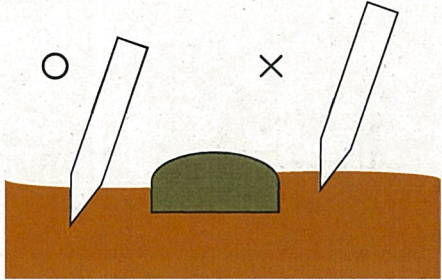

採取手法	3 スコップ等で掘り出して採取
対象	海岸域及び海域の内在性の種
イメージ図	<p>海底の砂や海岸域の砂の中に生息する種のうち、特に深いところに潜る種は、スコップなどで掘り出して採取する。</p>  <p>図 底砂をスコップ等で掘り出して採取 (模式図)</p>
引用元	—

表-3.4.2(6) 採取手法の事例 6

採取手法	4 鋤等で砂を掘り返して採取
対象	海岸域の内在性の種
イメージ ☒	<p data-bbox="384 367 1375 539">【鋤を利用する場合】 鋤やジョレンを用いて、複数の作業員で広範囲に底砂を掘り返して採取を行う。これは、内在性の種のうち、比較的浅いところに生息する種を対象とする。</p> <div data-bbox="384 611 1369 1361">  </div> <p data-bbox="791 1400 999 1431">写真 鋤等の利用</p>
引用元	—

表-3.4.2(7) 採取手法の事例7

採取手法	5 タガネで基盤の岩石ごと採取
対象	海岸域及び海域の表在性の種
イメージ図	<p>【タガネを利用する場合】</p> <p>移動対象種を破損しないように、タガネを外側に向けながら、基盤ごと掘り取る。対象種に採取時の影響をなるべく与えないように配慮することとし、可能な限り当該個体の大きさの2倍程度の距離を離して基盤を剥離するよう努める。</p>  <p>図 タガネの使い方</p>  <p>平タガネ ハンマー類</p>
引用元	タガネ：仙台市科学館「岩石・鉱物・化石 採集のしかたと標本の作り方」